

皆でつくろう！手作り魚道 —魚がのぼり、笑顔ひろがる—

1 社会資本の概要

駒生川は、清流美幌川の支流で、魚類の生息個体数や種数が美幌町内で最も多い川の一つとして知られています。アイヌ語では、「チェポンオンネナイ(サケがたくさんいる大きな川)」と呼ばれ、今でも秋にはたくさんのサケが遡上し、地域の人たちの目を楽しませてくれます。

近年、宅地化や農地化が進み、駒生川は直線化さ



手作り魚道設置前

れ、それに伴って流速を落とす目的で9基の落差工（小型の堰堤）が設置されました。その結果、魚類を含めた水生生物の河川内移動が妨げられ、良好な河川生態系が失われてしまいました。

そこで、「魚が泳ぐ川を取り戻したい」という思いから、駒生川に魚道をつくる会が結成され、手作り魚道の取組が始まりました。



手作り魚道完成後

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

魚道づくりに当たっては、駒生川に魚道をつくる会と河川管理者（行政）が協議会を立ち上げて取り組み、駒生川に設置された7基の落差工に簡易魚道を設置しました。魚道づくりには会員はもちろん、地域住民や大学生、役場職員等延べ230名を超える多くの方々に参加しました。

魚道の材料は、地元で生産されたカラマツ材や畑から取り除かれた不要な石を活用することにより、

地財地消や費用軽減の工夫をしています。その結果、サケやサクラマスなどの魚が40年ぶりに遡上し、稚魚との対面に涙する会員もいました。

また、子供達の体験学習の支援や域外からの視察の受け入れ、フォーラム開催等を通じて、河川環境の大切さを伝える啓蒙活動も行い、一過性の活動に終わらないよう努めています。



魚道の完成を喜ぶメンバー



産卵遡上したサケ（北海道の許可を得て調査）



北海道網走郡美幌町 駒生川に魚道をつくる会

3 活動の成果や波及効果等

手作り魚道の取組は、他の支流にも広がっており、平成27年度から美幌川支流の福豊川で手作り魚道の取組が始まりました。この取組にも、駒生川に魚道をつくる会のメンバーの多くが加わっています。

また、町外（網走市や富山県など）からの視察もあり、富山県では実際に手作り魚道を完成させました。

駒生川に魚道をつくる会は、川を原生自然に復元するのではなく、人間と生き物とが折り合いのつく形で共生する自然を目指しています。



120名以上が参加した手作り魚道のフォーラム



魚道設置作業
(丸太取り付け)

魚道設置作業（石投入）

喜びの声



受賞者

駒生川に魚道をつくる会
会長 橋本光三

コメント

協力してくれた方全員でいただいた賞と受け止めています。落差工を上げられない魚を見たことが活動の原動力でした。今後は、維持補修などの課題もあるので、活動を知ってもらうことで協力が広がってくれればと思います。

活動内容

魚道づくり、生き物調査、普及啓蒙活動 など

活動の経緯

- 平成21年 会の発足
- 平成23年 魚道の第1基完成
その後、計7基の落差工に簡易魚道を設置
- 平成24年 サクラマス、アメマスの産卵床確認
- 平成25年 40年ぶりにサケの遡上確認

手づくり郷土賞について

公開審査会について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

北海道網走郡美幌町

活動主体及び連絡先

駒生川に魚道をつくる会
(0152-72-2160 美幌博物館 担当町田善康)

対象となる社会資本

一級河川網走川水系支流駒生川
※管理者：駒生橋より下流が北海道、それより上流が美幌町

